

相手に気付く

中込中学校 三年 佐々木 那奈

今年の夏休みが終わる数日前のことだった。

つい先ほど、母から激しく叱られた。原因は私が電話に出なかったからだ。私は幼少の頃から、休みには母の職場で過ごすことが多かった。しかし、今日は夏休みの課題の片づけをするために家に残ることを決めていた。朝、私は寝坊をし、出勤する母を見送ることができなかった。昼前、何回も着信を繰り返すスマートフォンをよそに、私は勉強をしていた。母はお昼ご飯の相談をしたかったようだが、私は急ぎの用事や絶対に伝えておきたい内容なら、改めてラインなどで送ってくれるだろうと思っていたのだ。その後私のいる家に慌てて駆け込んできた母は、私の無事を確認すると、私が電話に出なかったことをひどく非難し、家を出て行ってしまった。後で確認すると、ラインにも未読のメッセージが残っていた。私は、めったに怒らない母がなぜそこまで怒っていたのか分からなかった。ラインに気付かなかったのは完全に私が悪い。しかし、なぜラインで送ってくればいいのかような内容を、電話で伝えようとするのだろうか。

ラインと比較するため、まずは電話のメッセージから考えたい。電話から得られる何よりの良い点は、「すぐ」伝えられる点である。例えば、災害などの緊急時だ。すぐに相手に「大丈夫^①」と状況を聞くことができる。また、相手の温度を感じながら対話できるのも電話の魅力だ。人から直接出される声は、イントネーションや声の様子、その時の表情などから感情を読み取ることができ、文章よりもより細かい

心情や意図を伝えられる。加えて、その場で理解度を確かめながら会話することもできる。しかし、一方的な電話は相手の時間を無暗に削ってしまったりと、とっさに発した言葉が相手を傷つけてしまったたりすることがある。

一方でラインは、相手の状況を心配しなくてもいい点、何度も書き直せる点が大きなメリットだと感じる。自分のペースで進めたい私にとって、見たり送ったりする時間を気にしなくてもいいのはとても助かる。既読機能も、相手が自分のメッセージに気付いてくれたと知らせてくれる便利な機能である。さらに、言葉の推敲は音声ではできない。可能な限り誤解を減らす工夫やより思いが込められる言葉をじっくり探せるのが、思いやりにつながると思う。ただ、気付いてもらえないリスクは大きいのだが。

続いて、相手が電話という手段をとった理由を考えたい。今回の場合だと、お昼ご飯の相談だ。理容師の母は、言いたいことをすべて伝えられるほどの文を打っている場合じゃないほど忙しかったのかもしれない。あるいは、私と直接話したかったのかもしれない。はたまた、私が元気に起きているのか確認の意味も込められていたのかもしれない。それに、私はちょうどその前に貧血で倒れた。母はそれを心配していたのかもしれない。

それに対し、私はどうだっただろうか。着信があったのに気付いていたにも関わらず、電話に出なかった。一番の理由は、面倒くさかったから。喋りに夢中になって集中を切りたくなかったから。電話が不慣れで動揺してしまっただけから。本当に出てもいいのか迷ったから……。書き起こすときだから言えない訳に見えてきた。

電話もラインも、共通しているのは「目の前に相手がない」とい

うことだ。相手の状態が分からないのである。しかし、それはただの弁解だ。私の身勝手な無視で母をえらく傷つけてしまったことに変わりはない。母の伝言を待って、電話であれメールであれ折り返さなかった私に非がある。自分が行動を起こして相手に伝えることの重要性、それでどれだけ相手が安心するか。心が温まるか。返事が届いた時の嬉しさや安心感は、電話もラインも、目の前に相手がいる会話でも変わらないのだ。落ち着いて振り返って、私は些細だけれどもとても大事なことに気付くことができたのだ。母が帰ってきたら、誠意を込めて謝りたい。「心配かけてすみませんでした」